

## 令和4年度病床機能転換事業計画報告書

- 1 病院名：医療法人明晴会 西武入間病院
- 2 所在地：埼玉県入間市野田3078-13
- 3 病床機能転換概要

転換前病床機能区分	転換病床数（床）		整備事業内容	整備事業開始（着工）予定年月	整備事業完了（竣工）予定年月
	地域包括ケア	回復期リハ			
急性期	14		改修 設備整備	R4年9月	R5年2月

※転換前病床機能区分は「急性期」「慢性期」等該当するものを記載。

※整備事業内容は「新築」「増改築」「改修」「設備整備」の該当するものを記載。

- 4 提供する医療の内容

<p><b>【転換前】</b> 二次救急病院として西部地域に密着した医療を提供しており救急患者の受け入れを行っている地域一般病床 53床、及び長期療養を必要とする医療療養病床 37床</p>
<p><b>【転換後】</b> 在宅患者が多く見込まれる中、地域一般病床の53床のうち14床を地域包括ケア病床へ転換し地域のニーズに合った役割を果たすため、リハビリ機能を充実させ在宅復帰させる機能。</p>

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

埼玉県の地域医療構想によると当院は西部地域に属しております。急性期病床のみならず慢性期病床、回復期病床が求められています。法人内の診療所、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所を開設しており、近隣医療機関、施設からの受け入れが多く、病床機能の転換（地域包括ケア病床への転換）することにより、地域のニーズに合った役割を果たしたいと考えます。

○新たに担う役割

西部地域全体で、後方支援体制を強化するため近隣の医療機関と連携をして慢性期患者の受け入れ及び回復期患者の受け入れ体制に力を入れていくことが必要です。リハビリ機能を充実させていきたいと思っております。

○将来の方向性

当院は高齢者施設等と協力契約を結んでおり、在宅療養を希望する患者が、住み慣れ

た地域で必要な医療をうけながら生活できるよう医療・介護の充実を図り、リハビリを中心に、地域包括ケア病床を立ち上げ、慢性期、回復期に力を入れていきます。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

急性期病院からの受け入れ病院として、リハビリ機能が充実していないため、他の医療機関に紹介せざるを得ない状況が多い為、慢性期患者及び回復期患者の受け入れ病院として機能を充実させていきます。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 地域包括ケア入院医療管理料 1	算定開始予定年月 令和 5 年 9 月
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
<p><b>【転換前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(自院及び分院)自院より 124 人(約 38.9%)、西武クリニックより 22 人(約 6.9%)</li> <li>・(急性期病院) 埼玉石心会病院から 9 人(約 2.8%)、埼玉医科大学国際医療センターより年間 4 人(約 1.2%)</li> <li>・(診療所) 小室クリニックから 14 人(約 4.4%)</li> <li>・(施設) 聖愛園(特養)より 56 件(約 17.6%)、杏樹苑爽風館(特養)より 37 件(約 11.6%)</li> <li>・他近隣医療機関及び特養・老健施設(約 16.6%)</li> <li>・(訪問診療)在宅での看取り数 7 件、病院での看取り件数 5 件</li> </ul>	<p><b>(転換後)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(自院及び分院) 自院より 150 人 西武クリニックより 50 人</li> </ul> <p>亜急性期～慢性期・回復期を支える病院として、リハビリテーションの導入により大幅に機能を拡充できることから、急性期病院(埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉石心会病院等)からのリハビリ・在宅復帰目的の入院が約 40%程度(相談内容統計からの推計値)増加すると見込まれます。また、地域包括支援センター・ケアマネージャー・介護施設(協力医療機関外)、自院以外の訪問診療を行う診療所からの大幅な新規入院の増加が見込まれます(約 50%程度※相談内容からの推計値)。</p>
<p><b>医療(介護)連携見込み</b> (※具体的に記入してください。)</p> <p>【転換後】に記載した内容の再掲となりますが、急性期病院からの紹介が大幅に増加する見込みです。紹介先としては、転換前(現在)は、回復期リハビリテーション病棟への紹介が多ありましたが、自院でのリハビリテーションが可能となるため、自院からの在宅退院の増加が見込まれます。また、入院中のリハビリテーション実施を希望している地域包括支援センター・ケアマネージャー・介護施設からの新規入院患者の増加が見込まれます。</p>	

<p><b>【転換前】</b>          紹介元：埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉石心会病院等急性期病院          紹介先：原田病院・飯能靖和病院(回復期リハビリテーション病棟)等、飯能老年病センター(認知症治療病棟)</p>	<p><b>【転換後】</b>          紹介元：左記の他、地域包括支援センター・ケアマネージャー・介護施設(有料老人ホームベストライフ入間・イリーゼ狭山等)増加する見込み          紹介先：左記の他、施設・在宅退院に伴い自院以外の訪問診療を行う診療所等への紹介(逆紹介)が増加する見込み(さつきクリニック、わかさクリニック、さやま地域ケアクリニック等)</p>
---	---

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア入院医療管理料1」等該当するものを記載。

## 6 医療従事者

職種	転換前の人員(人)			転換後の予定人員(人)		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	4	19	4.0	4	19	4.0
看護師	16	9	5.7	16	9	5.7
准看護師	6	5	3.1	6	5	3.1
看護補助者	5	15	9.1	5	15	9.1
理学療法士				3	1	0.5
作業療法士						
言語聴覚士						
放射線技師	2	0	0.0	2	0	0.0
臨床検査技師	1	3	2.0	1	3	2.0
薬剤師	3	1	0.6	3	1	0.6
事務	13	1	1.0	13	1	1.0
その他	9	8	4.5	9	8	4.5
計	59	61	30.0	62	62	30.5

### 確保状況・確保策、確保スケジュール

<p>(※変動が生じる予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。)</p> <p><b>【医師】</b></p> <p><b>【看護職】</b></p> <p><b>【リハビリ職】</b></p> <p>令和4年12月まで3人の常勤を順次確保見込む。          ハローワーク、PT/OT/ST ネット、紹介業者への依頼等</p>
---

【その他】医療相談員の確保

7 主な病院内施設・設備

転換前	転換後
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病室8床室 2室 (地域一般)</li> <li>・病室7床室 2室 (地域一般)</li> <li>・病室5床室 1室 (地域一般)</li> <li>・病室4床室 4室 (地域一般)</li> <li>・病室1床室 2室 (地域一般)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能訓練室 1室 49.9m<sup>2</sup></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナースステーション 1室</li> </ul>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病室8床室 2室 (地域一般)</li> <li>・病室5床室 1室 (地域一般)</li> <li>・<u>病室5床室 2室 (地域包括ケア)</u></li> <li>・病室4床室 4室 (地域一般)</li> <li>・<u>病室4床室 1室 (地域包括ケア)</u></li> <li>・病室1床室 2室 (地域一般)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>※機能訓練室 廃止 1室</u></li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナースステーション 1室</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>敷地内にリハビリ室を増設 104.34m<sup>2</sup></u></li> </ul>

(※増減が生じる施設・設備は、アンダーライン等でわかるよう記載してください。)

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○市町村・ケアマネージャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等

・R4.1.1日現在の入間市の人口は146,309人であり、高齢者人口は43,831人、高齢化率は29.96%です。西武入間病院が所在する西部地区は、人口21,201人、高齢者人口6,668人、高齢化率が31.45%であり、入間市日常生活圏域全9地区の中、高齢者人口が最も多い地区です。独居、認知症の高齢者、社会的な困難な要因(老々介護、生活困窮、虐待等)を抱える世帯も多く、外来・入院・退院がスムーズに行うことができるよう、入間市その他の近隣市町村(所沢市、飯能市、日高市、狭山市等)、地域包括支援センター、ケアマネージャー等と日常的な患者様の支援での情報共有、連携・協力を行っています。また、地域に積極的に訪問し、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。入退院については、スムーズに行うことができるよう、早期の入院時スクリーニング及び家族の意向確認、院内多職種(看護師、薬剤師、栄養士、社会福祉士)による情報共有・支援方針の確認を行っています。

・社会的に困難な課題を抱える患者の退院調整(成年後見申立、低所得者の施設入所待機期間)が長期化する傾向にあり、課題となっています。地域からは、在宅・施設問わず高齢者に対する入院中のリハビリテーションの需要が高いため、地域包括ケア病棟開設後は、より連携の回数が増大する見込みです。